

令和5年11月30日



小学校だより 12月号

横浜市立瀬谷さくら小学校
校長 場家 誠

学校教育目標 「自分大すき 友だち大すき このまち大すき さくらの子」

(知) 困難なことにもあきらめずに挑戦する子に育てます。

(徳) 物事の善悪をきちんと判断し、辛抱と我慢のできる子に育てます。

(体) 自分や人の命を大切にする子に育てます。

(公) 小さなことでも、社会に役立つための行動ができる子に育てます。

(開) 様々な人とのコミュニケーションを通じて、社会への視野を広げる子に育てます。

だれかの「おかげ」

校長 場家 誠

少し前の話になりますが、前期と後期を分ける分期式において、6年生の代表児童が前期の振り返りの作文の中で「私が前期がんばれたのはクラスのみみんなのおかげです。」と言っていました。その後の運動会でも、終わりの言葉を担当した6年生から同じように、友だちの支えに感謝する言葉が語られました。どちらの言葉も、聞いていて、とてもうれしくなりました。

「おかげ」とはもともと、木の下にいる人が、木陰で雨風に当たらずに済んだり、暑い日に陽射しを避けて陰で涼んだりする様子などが由来となっている言葉のようで、神や仏といった見えない力の加護や保護を意味する「お陰」が語源だそうです。その「お陰」に敬意を表す「様」をつけると、「おかげさま」という語になって、感謝の気持ちが加わります。

先に紹介した6年生の2人の言葉には、「おかげさまで」という直接的な表現はありませんでしたが、友だちの存在に感謝する気持ちは強く伝わってきました。

学年は違いますが、今、2年生は下原公園や下瀬谷第二公園、内林第二公園（通称新幹線公園）等への「まちたんけん」に出かけています。そして、各公園での地域の方々との出会いを通して、普段自分たちの安全を守ってくれている学援隊や公園をきれいに保ってくれている愛護会などのみなさんの存在に気づき、感謝の気持ちをもつようになりました。

このように、子どもたちには、自分たちの毎日の生活が、だれかの「おかげ」で成り立っていることや自分も実はだれかにとっての「おかげ」になっていることを実感してもらいたいと思っています。それは、そのまま「自分大すき 友だち大すき このまち大すき さくらの子」に近づくことになるからです。

ちなみに、私は毎日子どもたちの元気な姿に力をもらっています。まさに、子どもたちの「おかげ」で元気でいられます。また学校としては、保護者のみなさんのご理解、ご協力の「おかげ」で、運動会や親子道德会、校外学習等々、日々充実した教育活動を展開できています。さらに、さくらの子応援隊をはじめとした地域の方々「おかげ」で子どもたちは、日々安全に、そして安心して学校生活を送ることができています。まさに「おかげさまで」を言い続ける毎日です。本当にありがとうございます。

間もなく師走を迎えますが、引き続き皆様のお力添えをいただけますようよろしくお願いいたします。